

みえの文化の特長と「三重の文化振興方針」の主な成果と課題

1 みえの文化の特長（現行方針より抜粋整理）

（地域性豊かな文化）

三重は、伊勢湾から伊勢志摩のリアス式海岸、熊野灘へと続く 1000 kmにも及ぶ海岸線、急峻な鈴鹿山脈と雄大な紀伊山地、伊勢湾をはじめ、大阪湾や熊野灘に注ぐ多彩な河川、平野や盆地など変化に富んだ美しい自然に恵まれている。旧国名では、「伊勢」、「志摩」、「伊賀」、「紀伊」の4つの国から成っていた三重は、多様な気候・風土のもとでのくらしの営みから、地域性豊かな文化が育まれてきた。

（交流による発展）

- ・ 古代以降、伊勢神宮を結びとする数々の参宮道、熊野三山に向かう熊野古道などがあり、全国から多くの人々が訪れ、互いに影響し合う文化交流が行われ、発展してきた。
- ・ 伊勢湾などに形成された湊が東西物流の拠点となり、伊勢商人などは江戸へ進出し、商品だけでなく、同時にさまざまな文化交流も盛んに行われたと考えられる。遠く離れた地域の文化の足跡が三重に残る一方、三重で育まれた文化が日本各地に広がり文化の種を蒔いて新たな文化へと発展した。
- ・ 多くの著名な人物が三重の地から輩出し、彼らを慕って全国から人が集まり、芸術や学術などの交流が行われた。
- ・ 豊かな自然との関わり、対話の中で、文化が育まれてきた。

2 「三重の文化振興方針」の主な成果と課題（「5つの基本方向」に沿って）

（1）広げる・高める（人と人、活動の交流の中で、文化を広げ高める）

（成果）

- ・ 県民が多様な文化芸術にふれ親しみ、また優れた成果を発表する場を提供
- ・ 文化団体活動への助成や文化に関する顕彰などを実施
- ・ 図書館、博物館等が「文化と知的探求の拠点」としての機能を高め、公演や展覧会等を通じて、高い芸術性や本物の文化にふれる機会を提供
- ・ 所蔵する資産等を広く活用し、移動展示などのアウトリーチ活動にも注力

（課題）

- ・ 施設間の情報共有は進んだものの、事業連携の取組は広がっていない
- ・ 「みえ文化芸術祭」については一層の認知度向上が求められる
- ・ 文化活動助成や顕彰については県民への一体的なメッセージに欠ける

(2) 守る・伝える（地域の自然と歴史・文化遺産、生活文化を保存、継承する）

（成果）

- ・ 国史跡齋宮跡の調査等を通じて、地域の歴史学習やまちづくり活動を支援
- ・ 齋宮歴史博物館では、各種展覧会に加え県内外での広報活動を実施
- ・ 調査・研究の成果を踏まえて、齋宮跡東部地区の整備に着手
- ・ 県史編さん事業については、30巻36冊の内21巻27冊を刊行
- ・ 歴史的・文化的に価値の高い公文書を収集・選別し、保存

（課題）

- ・ 齋宮跡は全国でも例のない史跡であり、調査の継続・発展が必要である
- ・ 東部地区整備は、保存・継承だけでなく、観光振興・地域の活性化にもつなげるため、積極的な広報と、地域と連携した活用策の検討が必要である
- ・ 県史編さんは、執筆依頼や資料の整理等を的確に行いながら、未刊行の巻について、進捗度の高い巻の編さんを集中的に進める必要がある

(3) つながる・発信する（日本の他地域や世界とつながる）

（成果）

- ・ 子どもたちを対象に、県の施設や文化団体と連携して文化体験事業を実施し、受け入れた学校側からも高い評価
- ・ 三重大学と連携して県内の歴史文献データを収集
- ・ 県立博物館、教育委員会と連携して古文書調査人材を育成
- ・ 地域の歴史資料の散逸防止等を支援するため、市町とのネットワークを構築
- ・ 三重の文化情報を総合的に発信し、ホームページのアクセス数が大きく増加
- ・ 日本まんなか共和国等他府県との広域連携の中で、文化分野の連携・交流を促進（「奈良県立万葉文化館、島根県立古代出雲歴史博物館、齋宮歴史博物館の文化交流協定」の締結(H25.3)）
- ・ 「俳句のくに・三重」を県内外に広く発信するため、全国俳句募集を実施

（課題）

- ・ 文化ボランティアの育成、ニーズ把握等、学校との情報伝達を適切に行う仕組みづくりが必要である
- ・ 情報コンテンツの整備とともにインターネットを活用した効果的な発信の仕組みをさらに充実させる必要がある
- ・ 三重の多様な文化の魅力を効果的に情報発信する観点から、広域連携の仕組みを活用していく必要がある
- ・ 従来からの取組を継続しているもののねらいが不明確になっている事業について検証を行い、抜本的に見直す必要がある

(4) 創造する・生かす（未来に向けて、今を生きる私たちの文化を創造し、くらしやまちづくりに生かす）

(成果)

- ・ 県の施設や文化団体、教育委員会と連携して、小中学校での文化体験事業を実施し、学校・保護者からも高い評価
- ・ 伝統芸能やオペラなどの公演と事前の学習講座、図書館の関連書籍等の紹介を組み合わせ、県民の関心をより高める取組の定着
- ・ 歴史街道やまちかど博物館等、地域の文化資源を生かしたまちづくりを支援
- ・ 県民文化祭に「新分野展示」部門を創設（2007～2009）
- ・ 自殺防止対策の啓発事業と文化会館事業のタイアップ
- ・ 全国俳句募集事業にあたり三重ブランド等の食材生産者等が協賛
- ・ 県内の歴史街道散策マップ情報を観光局に提供

(課題)

- ・ 新たな文化の創造・発展につながる取組や施策をつなぐ取組は個々にはあるものの、全体の成果として見えにくい
- ・ 施策の連携は事業担当者ベースで、かつ経験を蓄積しているレベルにとどまり、全体としては脆弱である
- ・ 施設・文化団体だけでなく市町、学校、業界団体等幅広い関係者との関係を構築する必要がある
- ・ 各部が所管する施策との連携を進めるとともに、その成果を共有できるしくみが必要である

(5) 支える（文化振興の取組を支える）

(成果)

- ・ 総合文化センターは、指定管理者制度の導入による効率的・効果的な施設運営、質の高い事業展開が行われ、施設稼働率、顧客満足度で全国屈指の水準を維持
- ・ 文化会館では、県民のニーズに応えた公演など幅広い取組を、生涯学習センターでは、多様化・高度化する県民ニーズに応えた学習機会の提供を、図書館では、新しい改革計画「明日の県立図書館」の取組を、美術館では美術に対する県民の関心をより高める多彩な企画展示を実施
- ・ 「源氏物語」などの共通テーマの下で各拠点の専門性を活かす展示・体験事業を、民間の有識者等と連携して実施
- ・ 各施設の機能充実と相互の連携を図るため、施設連絡会議を継続的に開催
- ・ 文化団体等の活動を活発にしていくための情報共有の仕組みづくりを支援
- ・ 施設、設備の機能を保ち安全に利用できるよう、所要の修繕を適切に行うとともに、経年劣化による故障や事故を予防するための改修を実施

(課題)

- 「文化と知的探求の拠点」としての一層の機能強化が必要である
- 県民が地域の魅力について学び、交流し、活用できるよう、「文化交流ゾーン」の構築を進める必要がある
- 県立図書館は、より多くの県民の学習活動を支援するため、市町等と連携し、引き続き、県全体の図書館サービス向上を目指す必要がある
- 文化団体等の活性化のため、関係者相互の情報共有が適切になされるよう、側面から支援していく必要がある
- 老朽化に対応するため、総合文化センター以外の施設についても長期的な維持管理計画が必要である
- ソフト事業の財源としてきた文化振興基金が26年度には枯渇する見通しであり、抜本的な対策が必要である